令和6年度 第1回福島市環境審議会 議事概要

日時 令和6年8月29日(木) 午後2時～午後3時45分
会場 福島市役所4階 庁議室兼防災対策室
出席者 委員10名(欠席2名)
中田俊彦会長、須藤康子副会長、石高久美子委員、各務竹康委員、
後藤忍委員、杉山直樹委員、田崎由子委員、富永幸宏委員、
長渡真弓委員、三島昭二委員
事務局 職員17名
傍聴者 記者10社、一般1名

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事(議長:中田会長)

(1) ノーモアメガソーラー宣言の趣旨に基づく条例制定について

① 骨子について(事務局より説明)

【資料1】ノーモアメガソーラー宣言の趣旨に基づく条例制定について

○意見・質問

委員 今回の条例に関しては風力も対象となり大変うれしく思う。
保護団体は、メガソーラー自体を反対していると思われることもあるが、資料にも書いてあるとおり適正な場所に設置することは進めてほしいと考えている。
市民等への周知の他に、保全・保護団体への周知も入れていただければと思う。
福島市内で活動している団体はボランティアでやっている方が多いが、希少な生き物等、どこにいるか、どのように生息しているかなど生息場所等の情報をよく知っている。
メガソーラーの情報は、県などの閲覧で把握できるが、気づいたときには閲覧期間が過ぎ、意見が出せなかったことが実際にある。設置業者に対し、保護団体、保全活動等を行っている団体にも、周知、意見を求めるようにしていただければと思う。
開拓パイロット地のメガソーラー開発で、環境アセスの結果報告を受けたことがあるが、ありえない報告書が出てきたこともあった。それもあって専門家の意見を聞いてほしいと思う。
また、メガソーラーで残っていた緑地に福島県のレッドリストに載っている貴重な野鳥が確認されていたが、その緑地までもソーラーパネルが設置され

ていた。メガソーラーで残っている緑地への開発が進まないように、指導していただければありがたい。

委員 住民への説明できちんと同意を得ないと後々、色々な問題が出てくる。また、撤去のところもきちんと管理するということを徹底してほしいと思う。1年ごとに市へ報告という記載があるが、きちんと厳しく、私たち住民の目線で見ていただきたいと思った。私達から見えない部分のところの開発についても危惧しており、条例ができるとその辺も厳しくできるのかなということで、期待している。

委員 もうできあがっているところをやめろとは言えない。ノーモアメガソーラー宣言はいいことだが遅すぎた。色々なところが開発されているので、それを全部地図に上げて市民に周知することが大事。そうすれば市民や議員が色々なことで止めるために動き出す。メガソーラーを作ってから止めようとしてもなかなか難しい。

委員 水原は先達山の3倍の容量をもつ太陽光の開発が行われており、土石流の心配も3倍ある。自治振興協議会でもメガソーラーを加味したハザードマップの作成について発言した。ハザードマップの書き換えは難しいとしても専門家に意見を聞きながら、将来、線状降水帯が発生したら、土石流が起きる可能性が高いなどを周辺住民だけにでも周知いただきたい。

委員 メガソーラーが使えなくなった時の処分をどうするかも問題である。完全にリサイクル可能ならば、許可を出してもいいが、この条例を作るにあたって、これ以上作らせないぐらいの強硬な手段をとり、全国に先駆けて反対することが大事だと思う。

委員 条例で遡っての規制は非常に難しい。全国的に見ると、許認可等までは難しいが、指導や勧告までは行っている事例もある。そういった例を参考にして、もうすでにできている事業、事業所に対して何らかの指導・勧告等ができるような措置を条例の中に検討されてはいかがか。

委員 メガソーラー建設には電気を流すための鉄塔も立てる必要がある。施設本体だけでなく、鉄塔まで規制すべきだと思う。

委員 事前協議から廃止までの流れが一直線になっているが、どんな工事なども不足の事態や想定外のことは常に起こると思う。事前のアセスメントでは十分に想定していたはずが、異常気象や、線状降水帯の威力がとんでもない等で当初想定してなかった雨量で泥水が出る等そういうこともあると思う。そういうときに、計画外のことだったからその応急処置ではなく、その次起こさないためにまた計画を作る段階まで立ち返っていくということで、その計画実行だけではなく計画そのものの見直しまでサイクルとしてできることが必要だと思う。物価高騰等の影響も踏まえ、撤去費用等の積算をアップデートできるようにする等、実効力を上げると良いと思う。

委員 この条例は閉鎖されたゴルフ場とかも対象になるのか。

事務局 例えば安全性に問題があるような区域は危険であるため、広域を守るために禁止するといった考え方で、まずは市域全体のうちの禁止区域を考え、それ以外については許可制という形で、検討している。許可制とは技術的な基準をクリアしたものについてのみ、許可していくという形で考えている。ゴルフ場についても、その禁止区域以外であれば、一定の基準をクリアしたものだけが発電事業が許されるという形になると考えている。

委員 先ほども言ったように、福島市のどの地区にどれだけのものがあるか全部地図に上げ、マスコミや議員、行政、市民の目につくようにしてほしい。そうすれば反対運動、駄目だということを強くいえる。また、地図に県が認めた施設、市が認めた施設を色分けしてほしい。

委員 今回の条例にすごく期待している。それぞれの流れのところを、いかに厳しくしていくかというのが、条例を作っていく中では大事かなと思っている。例えば住民説明もただ説明しました、開催しました、で終わるのではなく、やはり住民の理解を経て、いいですよという、理解を得てから進めるということが大事。
条例ができればホームページだけではなかなか全体に周知できないため、市の広報誌やちょっとしたチラシ等を色々な学習センターなどに配ることや、或いは求めがあったときには、その地域の方たちへ説明しに行くということを徹底すれば理解が得られると思う。

委員 メガソーラーを設置する場所は近隣住民がごくわずかで、所有者を集めても数人程度という場所も多いと聞いたことがあるが、そういう方たちは、おそら

く反対はしない。近隣住民だけではなく、もう少し広域の住民にも説明するようにしてほしい。この他、保全活動をやっている団体等にも説明をするようにしてほしい。

場所によってはソーラーパネルの耐用期限が近い場所もあるはず。撤去の義務はあるが業者が倒産等でいなくなる場合も出てくるのではと心配である。ソーラーパネルの適正な管理、撤去に至るまで事業者を厳しく監視できるようにしてほしい。

委員 今あるメガソーラーのところをもっと厳しくできるような条例を盛り込んだ方が、ハードルが高いと見られ、集まる方もいなくなると思う。ぜひそれを入れていただきたい。

委員 SNS で先達山の情報を出したおかげで、ある程度のことが市民にもわかるようになった。いわゆるこういう状態でこうなんだということが、ただおかしいよねと言っているのではなく、現状を把握できる。そのため、やはり情報を開示した方がみんなにとってよい。

② 骨子について（事務局より説明）

【資料1】 ノーモア メガソーラー宣言の趣旨に基づく条例制定について

○意見・質問

委員 昨年の8月に審議会を開催して、ノーモアメガソーラー宣言がされた。それから1年経ってやっと今回の審議会が開催された。メガソーラーについてはあれだけ騒がれて我々も心配しているので、条例の施行を前倒しにできないのか。

事務局 可能なぎりぎりの線をねらったのが、実は3月で、できるだけ早くという希望については、昨年皆様から、ガイドライン作るにあたってもいただいていた。ただ、条例策定にあたってガイドライン同様の規制がかけられるかどうか等、研究を重ねた結果、どうにか今このタイミング、このスケジュールでやれるというような状況を踏まえて、我々が想定できる最短のスケジュールで組んでいる。ご理解のほどよろしく願いしたい。

委員 今回の審議会の意見はどういう位置付けになるのか。

事務局　今回は諮問ではなくて、審議会からご意見をいただきながら、それを素案等に反映する。それを次回の審議会で皆さんにお諮りして、その上でパブリックコメント等に進んでいきたいと考えている。

(2) 環境基本計画の策定及び脱炭素社会実現実行計画の中間見直しについて(事務局より説明)

【資料2】環境基本計画の策定及び脱炭素社会実現実行計画の中間見直しについて

○意見・質問

委員　1年ごとの達成目標があると市民にとってはわかりやすい目安になる。

委員　市民ワークショップの対象はどういった方か？

事務局　こくりナビへ登録している大学生などの若者を想定している。

委員　Z世代は高校生～26才まで入るので、高校生まで入れ込んだ方がいいのではないか。

委員　市民ワークショップは大変良い試みだと思う。可能であれば、計画全体の骨子作成後、ワークショップを再度実施すると内容に反映できるのではないかと思った。

2点目、アンケートで大規模風力発電のことに触れる予定はあるか。また、地熱発電についても条例で規制している事例もあるが、条例へ入れ込む予定はあるか。

事務局　今回の福島市で課題になっていた、大規模な太陽光発電についての対応に加え、風力発電施設の設置についても、例えば水源保護区域あたりで事業化を考えているようなところがあったり、守るべき対象がしっかりしているところの条例化を考えていた。また、現時点では、地熱など、その他の再生可能エネルギーについての規制の部分については、考えているところではない。

議長　1つ目に、今回の条例化に対して、皆さんから非常に前向きな意見が出ていると感じた。条例化して、今までの比較的悪質な事業者に対して市がノーといえる権限を持つというのは画期的だが、カーボンニュートラルとしては止まる。そこから先も、今度は別の汗をかいて、皆さんが納得できるような脱炭素に向

けた企画について冷静になって考えていくことが必要。

2つ目に、NPOや環境団体自然保護団体の位置付けだが、海外は非常によくできていて、半分プロとしてきちんとお金をもらって取引をしている。日本はまだ環境団体の位置付けが曖昧で、ボランティアかやる気だけで、まだきちんと契約していくようにはなっていない。今の日本のアセスメントは地域の人の意見を聞いたり、どのように環境配慮型のビジネスに持っていくのかというところは一切なく、ただ調査をしているだけで、社会の調査はしていない。本当は環境アセスの中にもプロの環境NPO、地元のNPOが入れば、もっとうまく着陸した修正案ができる。

3つ目に、メガソーラーができてその恩恵を実感できるようにしないとイケない。そのために、一番簡単なのは自宅に太陽光を置くことですが、4~6kW乗せるだけで1年間の電気代がほぼ9割引きになる。

それは皆さんの判断でできるが、それを地域全体にどう膨らませて、その恩恵を地域の集合体としてどうフィードバックするような、仕組みを作るのかというのは、とても格好のいい話。

江戸時代から明治に来たときの色々なネガティブな側面が今、温暖化という形で直撃しているので、これをどうやって変えていくのか。福島だけ変えても温暖化は当然直らない。地域に恩恵があるようなエネルギーの仕組みを地域で作っていかねばと思う。

○事務連絡

事務局 第2回の環境審議会は10月に開催したいと考えている。その際は令和5年度の実績報告、条例案の素案の審議などを予定している。

本日の議事概要については、事務局でまとめ、委員の皆様にご確認いただいた後で、市のウェブサイトで公表したいと考えている。

なお、議事概要の確認については委員の皆様のメールアドレスまたは紙で郵送させていただく。

4 閉会

以上